

宿縁

十月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

金剛の信心こそ

この世の問題を問う



爽やかに晴れた秋の日の午後、「文化講演会」の案内チラシを家々のポストへ配って歩きました。

普段、車から見ている町の景色と違って、歩いていろいろ細かな細かい光景が目に入り、肌で感じます。

お迎えのお母さんの自転車に乗る園児やおしゃべりしながら下校する小学生の子らの無邪気な姿は何とも微笑ましいものです。

一方では、林や畑だった所にも大掛りな宅地開発造成が行われて、失望感に襲われま

す。また、有線放送が「市役所職員を騙って振り込め詐欺の電話が今日多数寄せられています。ご注意ください」の声が流れてきます。

のどかな昼下がりの町はいろいろな光景を映して世間の動きを見せてくれます。

ふと、配っている文化講演会の案内チラシの文言を頭にめぐらせて、変わるものと変わらないものを考えてみました。

『世の中が平和でも 戦争がなくても人は死にます 必ず死にます その時に生まれてきてよかった 生きてきてよかったと思ひながら 死ぬことができるでしょうか』(永六輔さんの詩)

ゆっくりであれ早くであれ、世の中のこととはすべて変わります。ゆっくりであれ早くであれ、生まれてきたら誰でも死ぬという事実は変わりません。

しかし私たちはそれらがわかっているように実はわかっていないのです。変わるものを変わらせまいとするのは無理なこと、そこに執着するという厄介な心のはたらきが悩みとなって苦しめるのです。

それならば執着する心を止めて、すべてをありのままに受け入れて平穏でありたいというのにも容易なことではありません。

どちらにしても私が決めるとなれば、決めかねる不安がつきまとい、決めたと先から不安がついて回ります。

ここで、私たちが学ぶべき親鸞聖人の教えの中から「金剛堅固の信心(こんごうけんごのしんじん)」ということについて耳を傾けてみましょう。

金剛というのはダイヤモンドにたとえられますが、真実信心というのは決して壊れることのないという意味で、自分と意見の異なる人の中にあつて、決して動乱されたり壊されたりすることがなく、一筋に道を歩んでいくことができるということです。

これが親鸞聖人の、仏教観の大事なところ。これも浄土真宗はというと、この世は辛く苦しいから浄土に生まれていくことを期待するというような形でいわれることがあります。それがそうではありません。何のための仏教かという、いろいろな考え方や、思想・宗教の違う人の中を生きていくために、その中にありながら、自分の歩むべき道を見失わないというのが大事なことです。

意見が違う人とも一緒にいられるというのは、自分が歩むべき道が本当にしっかりしているからこそ違う人ともいられるのです。本心に静かな歩みというのは、違う人といても相手の言うことを聞けるのです。だから、

金剛心というのは別なところでは、身と心が柔軟「身心柔軟」であるとも言われます。だから金剛というのは、決して頑固なことではなく、誰の言うことにも耳を貸さないということではなく、逆に意見の違う人ともいられる。実際世の中というのは、意見が同じ人の方が少ない、そんな中で仲間だけが寄り集まっていくというのが仏教ではありません。違う人と共に、しかも切れずに歩んでいけるという、こういう問題に関わっているのです。

世の中で仏法に生きようとすれば、いろんなことが飛び込んできます。世の中を生きていけば必ずいろんなことが起きます。その中であつて、何を大事に生きるかということを見失わない、これが金剛心という課題です。だから、いろんな障害が次から次へと起こってくる、その中にあつても歩むべき方向を見失わない。それが真実の仏道であるということ。私たちが親鸞聖人はおっしゃっているのです。私たちの素質や能力で起こしたような信心なら、すぐに吹き飛ばされます。

親鸞聖人は「如来より賜りたる信心」一つが金剛の信心であると示されました。信心には、はつきりとわかったという内容があるということ。それは私たちの素質で起こすのではなく、どこまでも如来のはたらきかけによつて起こるのです。それによつて一歩一歩、ようやく歩んでいける。この世の問題を問うていく、そういう力と眼をいただくのです。ここに仏道を退転せずに歩んでいくということが、何によつて成り立つかということを確認されているのが、「如来より賜りたる信心」の内容です。

金剛の信心というのはどういふところで言われるかという、いろいろな問題の中に私たちは投げ出されて生きています。その中であつて、なにを一番大事に生きていくのか、決してこの世を離れてどこかへ行くという話ではありません。かえって、教えを通していいよこの世の問題を見抜いていく眼をいただくのです。どこまでも仏の智慧をいただいて、問題を見つめるといふことです。ここに金剛の信心という問題が重なっているのです。

【寺灯雑記】

○雨天の中、彼岸会法要を営む

9/22

極端に日照時間の少ない今年の秋ですが、お彼岸のお中日に営まれた彼岸会法要も雨天の中の参詣となりました。

雨にもめげず来寺されたおよそ百名ほどのみなさんと仏説阿弥陀経を誦したあと、法話は明治学院大学名誉教授の阿満利磨師から「極論の効用」と題してのお話を伺いました。

「法然聖人から親鸞聖人へと受け継がれた本願念仏の教えは、まさに仏教本来のすべてのものが救われるという仏の本質を明らかにしたもので、人間の持つ優位性や差別性、血統といったおどましさを徹底的に打ち砕いた「凡夫(ぼんぶ)」の目覚めにほかならない。」と熱く語られました。

○当寺を会所に千葉組仏教壮年が集う

9/28

千葉組の仏教壮年会秋季研修会は「災害の後を考えよう！」をテーマに当寺で開催されました。参加寺院13か寺、研修参加者69名(当寺からは17名)は、第1部に「東日本大震災その後の現状と課題」を、講師としてお迎えした福島県復興支援宗務事務所の柴田宣弘氏から聞き、第2部では「福島・熊本などの自然災害や人災を考える」をテーマに有村和夫さんの司会で、次の3名(柴田講師、ボランティア経験の馬場弘道さん、そして当寺前住職)による座談会と質疑応答がありました。

このたびの研修では、原子力発電所事故に

よる人災の深刻さやそこから派生する風評被害という問題意識を喚起したと同時に、普段からのお寺の地域での存在価値をも考えさせられたのではないかと思います。

そして研修会後の間法会館での懇談会には43名が参加して各寺の交流が賑やかに行われました。

また、この日、福島県の物産品(味噌、りんご、ドレッシング、ジュース等)が販売されましたが、お蔭様で完売となり主催した千葉組の仏教壮年会幹事の方々は皆様のご協力による研修会の成果を感謝しております。

○門信徒会役員会を開く

10/1

今年度第4回定例門信徒会役員会は15名が出席して開かれました。

報告事項では、7月31日に開催された門信徒ファミリーパーティー参加者は凡そ160名であったこと、8/20〜21に行われた第21回夏休み子ども合宿では48名の参加に加え若いスタッフのお手伝いも多く大変頼もしかったことなど。

また協議事項では、10月1日から全10期にわたって京都本山で修行される第25代専如門主の伝灯奉告法要への当寺の団体参拝は、明年5月15日〜17日の2泊3日の旅程での参加に決まりました。それに伴い来年の降誕会、並びに永代経法要は5月28日に行うことになりました。

○グラウンドゴルフ交流試合で熱戦

10/11

松戸の金ヶ作公園野球場で、恒例の中原寺と天真寺さんとのグラウンドゴルフ交流戦を行いました。

当寺から壮年会・婦人会11名、天真寺さんから8名が参加をして日頃の腕を競いました。

結果は、大久保さん(天真寺)が優勝を果たし、河合功さんが2位と活躍(3位の山田敏彦さんと共にホールインワン2回)をし、2位から5位まで中原寺が入賞を果たしました。

今回は3回目の交流戦で、和気あいあいの中で次回の約束をして終了しました。(報告：石井保 記)

【ご案内】

☆第28回中原寺文化講演会開催

*日時：十月二十九日(土) 一時半

*場所：山崎製パン企業年金基金会館

*講師：末木文美士先生(東京大学・国際日本文化研究センター名誉教授)

*演題：「仏教の死生観」 (入場無料)

「死の感情によりそって生を磨く！」
あなたがこの世に生まれ
あなたがこの世を去る
私がこの世に生まれ
私がこの世を去る

その時 涙があるか
その時 愛があるか
そこに幸せな別れがあるだろうか

(永六輔さんの詩から)

ご一緒に聞き考えてみませんか。
知人・友人をお誘いになって皆さまのご来場をお待ちしています。

☆報恩講法要修行

*十一月二十日(日)

・五時：親鸞聖人を讃える灯火の夕べ
・五時半：法要(初夜礼讃)

*十一月二十一日(月)

・十一時：日中法要(讚仏偈)
法話(池田行信師)

・正午：おとき(精進料理)
・満座法要(正信偈)
・法話(栃木県慈願寺住職 池田行信師)

【法座・行事案内】

○高僧和讃に学ぶ 十月二十二日(土)三時

○浄土園収穫祭 十一月三日(祝) 十時

○お仏具・清掃奉仕 十一月五日(土)十時

○仏婦、仏壮合同法座十一月五日(土)一時半
「歎異抄十七章から問われるもの」
終了後に希望者はカラオケ有り、千円

○いのちの居場所を考える会
十一月二十四日(木)十時半

NPO法人「場の研究所」所長清水博先生
を囲みいのちの居場所について学びます

(法座・行事にはどなたでもお気軽にお出かけ下さい)

【十月の掲示板のことば】

人びとは みんな
生老病死の存在です